

母貝養殖事業化実証試験の概要

○事業実施の背景

令和元年度に発生したアコヤガイの大量へい死は、県内での稚貝のへい死率が7割に達し、全国でも同様の状況。

国や関係都道府県の研究機関等によりへい死原因の究明に向けた調査が行われていますが、現時点で原因の特定には至っていない。

真珠養殖業者にとっては事業を継続する上での大きな不安要素。

○事業実施の目的

真珠を養殖する上で母貝の確保は必須。

新たな母貝供給システムを構築することにより、安定した母貝供給を図っていくことが必要。

○現在の母貝供給のシステム

(1) 県外の母貝養殖業者から購入するケース

真珠養殖業者と県外の母貝養殖業者が直接母貝を売買

真珠養殖組合と母貝を養殖している地区の漁協を介して母貝を売買

県外の母貝養殖業者に稚貝の育成を委託して成長した母貝を買い戻す

(2) 母貝を真珠養殖業者自らが育成するケース

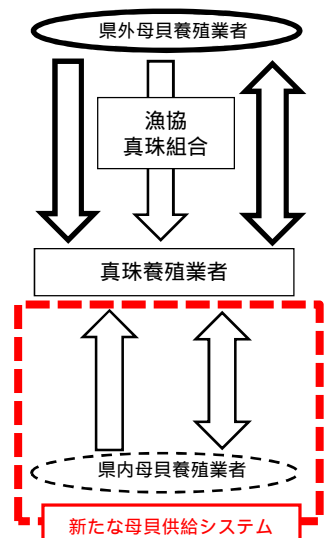
真珠養殖業者が自ら母貝を育成

○新たな母貝供給システム

「三重県内で母貝養殖業者と直接売買」するケース

「手間のかかる一定期間の管理を委託する」ケース

上記のケースが事業として成立するかどうかを検証し、新たな母貝供給体制の構築を促すことで母貝の安定供給に寄与します。



○事業実施体制

過去に母貝養殖漁場として活用され、真珠母貝養殖の区画漁業権が設定されている県南部の海域を活用。

県内での母貝の調達を求める真珠養殖業者と母貝養殖業の起業に意欲を持つ漁業者により、令和3年3月末時点で2年貝10万個規模での母貝の生産を目的とする養殖試験を実施。(志摩市委託業務)

この試験の実施を通して母貝養殖に関するノウハウを試験に参加する漁業者が共有し、生産された母貝の品質や経済性を評価して、新たな母貝供給システムの事業化に向けた検討を行う。

